

# Family

令和2年6月号  
小野市立河合中学校舎  
6. 8

## 「学校が再開しました」

校長 坂本敏裕

3ヶ月近くの臨時休校が終わり、6月1日より学校が再開しました。やっと新学期が始まったような感じで、学校に活気が戻ってきました。しかしコロナ感染症の対応のために、今まで当たり前に行っていた教育活動が今年度は大きく変化します。コロナ感染症予防のため、授業時間の確保のために様々な学校行事が変更になります。いろいろな制約の中で、ただ単に行事を中止にするのではなく、どんな形で実施できるのかということ、私たち教職員が考えていけないといけないと思っています。そして、こんな時だからこそ、



給食準備



自転車訓練

学校行事を通して河合の文化を継承しなければいけないと感じています。

また、部活動も始まりました。9年生は最後の総体に向かっての部活動になります。市内総体、東播総体、県総体といつもは次の大会を目指して行ってきましたが、今年度は勝っても負けても小野市総合体育大会が最後の大会になります。部活動ですから「勝つ」ことを考えてしまいますが、今年はそれ以外に大事なものがあります。ここから1ヶ月、どんな気持ちで練習をして、何を大切に最後の試合をするのか、きっと河合中の9年生

の人は、こんな時だからこそいろいろなことを考え、心に残る大会を創ってくれると信じています。



児童生徒会オリエンテーション

## ～授業づくり～

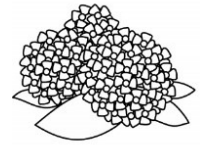
学校では授業が再開し、教室に活気が戻ってきています。長い臨時休校で学習の停滞が懸念されていますが、大人の心配をよそに児童生徒たちは元気に学びに向かういきいきとした表情をしています。

休校中の様子を聞くと、これまでの復習がじっくりできた人、新しく学ぶ単元を自主的に予習した人、ここぞとばかりに読書を楽しんだ人、料理や掃除など家の手伝いをしっかりした人、何か創作活動にいそしんだ人など、とても有意義な時間を過ごした人が多かったようです。

先の見えない不安な状況ですが、そんな時だからこそ河合中学校は児童生徒達一人ひとりにどんな力を育みたいか、ということを見つめなおす機会だと捉えています。前年度に引き続き、主体的な学びを目指して、発展的な授業づくりを目指したいと思っています。

## ～人権～

新型コロナウイルスに関連して、様々な出来事が報道されています。飲食店がお弁当を無料で在宅学習する小中学生に配ったり、アスリートたちがマスクを寄付したりなど心温まる話がたくさんあります。しかし、その一方で外国人差別や、医療従事者に対する偏見、いわゆる自粛ポリスと言われる過度な人権侵害など心が苦しくなる話も見聞きます。



あるサイトに「コ」と「ロ」と「ナ」を組み合わせると「君」という漢字になると載っていました。この休校期間の中で、「君」の大切さを感じた人も多いのではないのでしょうか。これから再び学校での集団生活が始まります。みんなが気持ちよく生活するためにはどんなことが必要でしょうか。今は、物理的な距離はとらなければなりません。しかし、こんな時だからこそ心の距離が縮まるような学校生活にしていきたいと思います。



### 【6月の予定】

- 6月1日（月） 学校再開  
身体測定、写真撮影
- 6月16日（火）サイバー教室
- 6月19日（金）ハートフル弁当デー
- 6月27日（土）第2回草刈り隊

